



貨

老木如葎前

中村俊定文庫

文庫 18

355





凡

子聖廣中

以字人



ハシ
中
應

寶曆卯年

而

石

櫻月上旬



松

長

臺

初

初

老の板

龍首

湖連

静々心多由也

手物

花如夜

云云

雀笑

矢如流者手釣子ありや

左巻春

此はたゞしや午後の事也
宵定に松を曲す香雪を
賦す

初庚の月を杖や老樹如芽

宋屋

基乃音もあはれ 鶴の橋 嘯山

八重一重山如笑ひかさるる 宗專

是より 左より 宗領内 貫友

秋仲百皆藝者夢の二男左 武然

と流小の鳥人 追ひ 壽 土髪

水如面尔子隱也 今宵桂影 映澤
 可々む福り豫を入初 魯州
 而乞能影厚とたさるる者自力 助耕
 低うらぬ業と 杉ふ重煙 汶上
 今うりて海への結結終まらん 仙漢
 里かきまは夢と披さけ 管子
 不つてその敵面作る夏乃客 嘯浦
 義之遠ひ下種うらはく 吐梁
 あやちなま詞と以く何んを海 掃 松暉
 今うりて海への結結終まらん 猫太

蝶夫合浦月の名戻し古孤 珍志
 看と去と如近甘如却し 一舟
 柳の陰忍ぬ多けきまか、望 蝶車
 貴人のいゝ系澄るる者 今夕
 若むりも毛晴花乃陰公るる 臺旭
 年々姓の雅は子道令 佐吟
 五印九子奉多牽以の蝶を遊ひ 百絮
 其一葉り小葉も 綢 顧山
 夕浪の篋へ通ふ牽乃寺 宗古
 世々人志るぬと山巖明 孤山

四山くハ西より北迄東物思ハ 使老
 名高ハ志小盾ヤ習打ん 徒遊
 夢存ハ志如龍より下如人席 烏曉
 出雲のまのまへ云ハ 桃茶
 作ハ江老乃 鈴照
 唐松子 鈴書 友遊ハ 鈴之
 根の何ハ志小 陶泉
 志教ハ陰を思ハ 松子
 尼灯ハ云く 志教ハお娘 瓜流

物の名ハ 神を首ハ 如素 紺 定石
 十分ハ 醉中ハ志小 巴東
 小ハ 彈ハ 珍ハ 唐人 名長セ江 秋水
 麻云く 志小ハ 口ハ 嘸ハ 喜雄
 請出ハ 志小ハ 語ハ 志小ハ 連玉
 名ハ 志小ハ 神ハ 志小ハ 社山
 富貴ハ 志小ハ 志小ハ 志小ハ 社山
 自ハ 志小ハ 志小ハ 志小ハ 社山
 秋ハ 志小ハ 志小ハ 志小ハ 社山

玉移り餘例うらむ社之あまのひ位 一塵
 無子をと元子よとらん心筆の目 松翁
 何と先と智もも 花如而僅ひ雀笑
 一帯子つり芳り〜 中 湖掌
 仙人の裾出さくひいひのちり 哥語
 奇妙な時祿正も海振 祿里
 故〜無乾坤の介中比尚 百五
 湯物不遠く往來 嗜む 念風
 ふれ七事り 過ぎむ海あり 雁嶺
 天人界を 識る 煙業 蒼遠

引ノ孝の表道具を 積まへ至 此田
 鳥りか減毛十六粒は酒 掉落
 能踊松子乃台如や〜 取 富冠
 谷を落る 然り又あり 澄水
 朝入る風沙を 磨乃主 謝師
 控まなく ちり家の 龍心 文豪
 昔曲の連年 夢りさみり 如輪
 舟子秋々の 嶮 峯如枝 落舟
 尾の名を 冠る 菱の 縁らむり 文誰
 禱み降を 去る 玉さき 和康

論るひも坊主登子なぐりて聖 敬之
 神宮も宗旨ハ猶子能め如 龍泉
 先祖よりのおへ破るは在分海 無常
 玉極結律業造る位階 松樂
 國母も位の志き如月乃者 紫莖
 單首をまゝに女即位宗 可抑
 菊造り乞舎村了 抱へら老 蝶慶
 猶子かまらぬ 佛法の型 宙深
 尖翫の雨り妙阿り 非無月 梵在
 幾時を分る 走る初難 右把

俵つむ淡子刻符乃深懐 懸處
 王母姑ぬふき免し浦島 金芽
 鏡之如ふ髪を花結乃盛湖連
 益も呀 松乃年 草之 扇川
 嘗やもも層を夕お存へ 松杏
 奥尚深き 霧も谷の戸 鯉勢
 山中了人の口や 明如人 香山
 欠落しん海子あゝ立身 和木
 折るは誘ひも 来く是見時 和境
 志き時ふ小 思ひ乃空 玉措

草の香天子の袖下 枝の月 白蓮
 糸如 螢乃 籠子 佛 桃枝
 言の葉多き 鳥路に身を恥す
 赤らるをこゝろ 中如子 咳
 口切の席下子を 突 空目利 其 詔
 幅きくく 金 湖 静
 面公さ日初々 志へ空を渡 和 水
 追人の牛に追ふ 水 川 糸 志 柳
 杉屋の香子 兼とまむ 葉の庵 晚 平
 折了 瞬く 東の 籠 冊 於 江
 一巻を互り 隠さ 上 名 目 士 紙 船

的の粒の娘 才 結の 歌 泉 牧
 新酒の匂ひ 匂ひ ちつと 人 と 顔 五 色
 おつす 花の 籠乃 大 胡 登 佐 嵐
 根子 咲る 懐 如 鼻 節 楓 坡
 枝川の 如く 知 亭 上 結 枯 所
 風 入 襟 中 依 暖 第 の 舟 波 笠
 以つ 夢 名 を 之 初 一 言 素 癖 鈴 亥
 佛 如 如 結 母 台 台 長 捏 雨
 雲 持 如 結 了 所 葉 如 毒 似 流
 雪 持 如 結 了 所 葉 如 毒 似 流

常分る身を覺んく夢出り
 世間上色の去り帯子結
 輕袋の中へ移る難ひる
 んもる少ぬ物智の流幅
 二杯の酔を吐くは松を植
 康一歩へ隠す家の粥
 天結く指止り月如き水い好
 餅作りて柳あり初
 大判結餅子愛しと考ひ物
 尼の秘蔵と人子志す
 廣社如黄梁の元はきり

四水
 麗珠
 急聖
 麻丸
 秋居
 地席
 丸穂
 老染
 雨苗
 彦電
 松古

無病を頼る事と健救
 吹風う漣と去依がくあ計
 何の差おもさぬ葉苞
 椀先子盤のこころきりく
 羽織然推土隈と時置
 うつゝ男や松の小枝子引能
 程磨り魚の舌日
 目く役事急子隠心胃語
 世を去りく子書命を徳
 酒もたむる瓢箪の圓子結花心
 春も去りく樂と文新と

新彦
 幽交
 松橋
 如是
 松橋
 竟為
 急来
 始統
 如産
 朱英
 雅因

光の如く臨みはるく日老を雲の
 喜はるく三又難にても留り葉
 根を吹く葉雨八句を綴り
 決天難友はるく日老を綴り
 一寄百中韻子及心尚遠近年寄西李の
 芳心對喜はるく在るく一六四

賀章混雜 増々果

松は花かといえん 杖や 秋の友 如 輪
 十うへ果の鉄才 持平 花乃 杖 鉛子

呈宋區占移

賀の作と 松う 突と 杖の 救 珍 志
 ゆく 杖の 喜はるく あり 玉 椿 管子
 ちの 杖や 松も 杖つ 困乃 爽 居 畠
 老の 板 登り ぬる 杖 幸 上 手 助 耕

喜はるく 何や〜めん〜

来月ハく小末の 燈の 意り 石
 八お中 自然〜つ〜 松 翁

九十七歳
 伊自氏
 八十五歳
 松翁

多門やまゝ人越祖一針 生如松 乾峯
 手来山先路ふとと 為 みるり 元陳
 唐き名の厚く 十子の夜万却り 汝上
 百子夜老さぬ 妻かや 七五三 今夕
 突あゝん とうらん 妻結をり 杖 信舟
 山越く 雀子 負と 控より 志 呉帆
 子代も ち世生 耐作の 言又の 世 砂波
 是うの 獲りも 一 老を 初海香 羽曲

此聖先生子代とあることありて右と云

若竹の友 交りや 風雅仙 普求
 涼しさを 友子ひ 赤踏竹の 春 きん 英
 松竹や 左右み 極しめ 了る 魯水
 随處に 妻とを くらべ はんを 子牛 吾人
 若竹や 子世を ても 赤信世 吾士 帳丸
 翁さび 竹と 鞭うて う川と 筆 我笑
 生引
 多し 知く 梨の 杖長く 竹の 尖 相仙

溪深く 谷又 狭し 若葉 栄 英飛

七中ハ藝種々菊乃分松の花見

宗正へ和ふ如打

松さへ古所方やら秋のうら花見

角力以結ひ風乃音信宋孫

代子連く積水や雪の貢物投山

和雪水多く蒲團や老を志上汶上

名月やまくうらずく藤門起の十尋

丸山を空の明かく月名か赤魯水

花の街を冬り裸ふく月見の珍志

古湯方の庭に於て

陣や重能子さく乃為教ひ如塵

候並四季混雜

飛螢雨夜の星かかくの花松梅吟

花の雨見上る庭に坐乃くわ助耕

古標突

賣春の中子はまぢく玉子名泉牧

花よ香を梅り引く二十二社丸穂

名人も古燈さしれ梅の花山笑

福ち也や雲在の口へ香如鐘孤舟

水燈の諸

松梅の門出や行く庭紅糸文下

いささか誰子隠る月さき以 分川

坂がま

あまのくさ日枝を指すは杜宇 百葉

志願

花園ハむしうちうさ如ま左久良 始統

唐案

海の面杉林葉裁や青すし初 全

宵戸内子拍乃平き水如小去少 魯州

水勢水ハあつたつた入鳴る聲 凹水

中何しや女等習如雪月花 梅所

五月雨お宗皆あつた如意友並 寔智

途中の記

遠近歩もさきき五月雨 故郷

文以や石もさきき如林あつた 杉古

混雑

踏踏下歩踏中 兼連入 扇川

把ささき自悟ハさき如あつた 長流

和雪や袂整付く 展ハ雪 提心

名月お移雨非止 音のり 雫巻

土つ雪お冬の表本乃 音心更 雁唄

木さし葉雪や 音心ん 天川 右把

梅ささき音心ん 音心ん 天川 右把 賈友

上巳

君の住ひし處も餘り学ころも 幽交
 何處に足跡を置け 火立ん亭 如山更 土髪
 五月もや老りも椿の男 婦 松睦
 五月雨や家路も鳴り浮位名 百柳
 幾度も柳の明る朝さみりふ
 文もかきし月も名残や寝心つこ 竹湖
 迷ひ子の歌や時を几柳さき以 富水
 お城の二枚舟より 十之柳 花見
 雨もくし晴るる空やら実中 桃苔

辛酉

自は信子能の若もなし 名柳 巳例
 十の指おろし 八十九 奏 九水
文もかき
 背の陰柳吐返き 袂の南
 来り柳や八十柳山を 百柳より 李林
 三子世もるをさくら如五のお 如草
 名もへる春の柳の 古来婦 可候
 七喜乃花のみくや 杖の土 里勢
 老ぬも 春へハ名し 柳の春 新二
 等なりや 柳の 袂の 瀬石

志所寄居日女子杖を曳る音に実様へ

墨雅

花房より杖を踏さる杖の音 墨雅

残るへ糸——恵のや、歩録、

未杖もいそがせ母——反木陰 如風

六能より十了をしし 松乃花 井梧

志所

うの花は衣や老子乃産婆も 吾計

浦島ハコト也——ころもあみやく 雨蚕

か月の世に宿るまを

安言や鬼の名を呼ば疾風の芝 萩荷

花咲か歎い比ま 志葉子 露竜

志所

真面目ころりと結ぶ 芙蓉嶂 彼堂

琴詞混雜

小舟玲々へ才 結ぶ若みやく 白圭

八百八川波古稱とらふ 舟の春 鈴里

徳も牙も到る事 世界や山さかす 可迪

花多小姫もこころや 老貴 扇川

庵主志所の女子

志所も負——や 真如杖の土 魯水

七十結ぶさうり 如智乃梅 来峯

何や、水く咲や 水如花 世も白ふ 一塵

来の山 妻たより や 福の古き 已流

録花の中へ 杖い、若くは 志の板 千席

天山改

松島老子代のみやう中家の杖 素遊
 松島壽中二葉五葉をよきやう 終遊
 名子巻く士望杖下和子の目 秋水
 古来稀今とほきかへりしきまに 味香
 七十八十九十の如くの白友なる 仙漁
 世生の先きさあすや吸乃峯 顧山
 葉の種かるしつ人は杖ハ伊達 稻太
 多儀子さうお喜お不き門 婦 松藤
 ねらぬる為結海人まつがき 吐梁
 七十年経く又喜をいつ杖は若 百右
 稀ありとたんの思ふ多きましく 故郷

古稀年賀 四季混雑

七十乃子代と智は福壽州 吟洲

先きの松と画く

高雲を戴く松や女も公髪 鯉勢

自花子子代も名言一箱学 可柳

四季

夢を算へ日記も唐一かき 釘丈

寄りぬる座女智恵は山葵之能

詠却しや土佐歌危乃五六町

山よりん巻き仕多と空の梅

未達く松心平一年乃和若子了節

年娼

國子杖はあそびをせよ乃松松衣 茶秀

七宵の花は枝能き日の子 佐嵐

白鳥

涌らへる日も深山木と時乃夢

四季

梅まきや松葉の体玉寺は板 松坡

梅子ハ花の中なる小君う菊

昔とる梅接子をいふ乃自

鼻の尖つたさきさきの子守歌

うふいゝ世子あゝあはれきりか 春州

風行く老木とこへぬ柳の歌 琴之

松連くまはれ虎上や 新次才 羅職

伝初る遊女も母乃 能言句 夢豪

多岐

菊の露がめく 今年結上の人 富保

うたふも書ひ 梅や花乃陰 冷水

草隠き跡の夢と 又津星 森雨

各中や片々の中子 杖と云 志楽

秋曉

冬つる花—— 森あきさる人か誰 太祇

上巳の遊小遊

聖務の隙に入習るは平らな 西 和水
面ふりし花とく世に物忘れ 和曉
布引の遊はあや 十文字 和荆

不二を中し廟を愛さく

冠の運二飛く心まき中富士乃榮 碧暈
暖簾と十文字を 六乃花見の肌 夢原

七夕

宵月の雲と記に如 露か菊 花見
みとりしと老に隠し 杉一本 水祇

茂るるもくは葉も如園生う家 松竹
まの葉より久しき花も志けとて 如山
七並り越えぬ情乃清なる那 魯州
す清涼く老の位や喜あはし 徒遊
七等どか花子結ふおあう如浦 哥詠
七かまの的す若となく 年乃弓 錦里
富ゆらん静に 年のまみやう 花見
彦やさん如路と舞り花は枝 湖岸
素き乃若如とさとお花首 蓮玉
舟の子や花かきと切るぬの之音 其鏡

中々七ツ咲き人ぬ智乃思きぬ
 濁水
 多き言き有り海十難ふ
 山
 中此くや松と並ぶ事喜の友
 看山
 七曲り子ともあり戸と如く春
 起夕
 稀ふ経しよの牛好子中ちよの杖
 十統
 灰折直約来し人足し人へ
 松樂
 中々通る事の手の着水と矢取の取
 鶴奴
 先焚き玉母と花如七世り
 派跡
 越松如く進く茂水とて中
 雁又
 新らまや幾秋もや八計表
 和希

陸奥の帯まきと全讀のくおむ日
 松多座の光まきとあ多座

左のく地も怖如子苗より
 荒之
 宝中たゆみ五月雨の簾
 宗登
 了牛のへ流上の水了燈如も
 宗登
 雷乃多燈も是れ進分縁
 宗登
 石物段をよむ松如のまき一層のあ風く
 由く寸松をおく
 又ゆらや
 宗の
 宗登
 中あまひ
 中あまひの妻如
 可也
 宗の心乃常入り思や伊氏の旨
 宗登
 何走る而くその影入り
 宗登
 宗登

入おのり史也船は志きりすすま

登 喚 石 山 止 水 流 乃 亭 宗 屋

舟 渡 飛 遊 水 一 西 之 川 詞 院

大石山の草をたててむく

舟 渡 上 上 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟舟の輝く船の上を舟舟舟舟舟舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟舟の舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 昔 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟の舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

途中の歌

吟中とありも人々も 喜乃色 一巻
才西何ふも味給 乃 奥 定居

山里の歌や肥ゆるん花は空 桃 碎

ちよと作れぬも ぬきやさき川 新二

喜や 亡福人 如 ちよと 木白

病後

ちよとを引起き少く年より 故郷

いろくの響り如 中よき世に 故郷

梅二句

おぼと ちよと 女や 恒如梅 朱英

ちよとちよと 嘆く けきや 梅の花 雅因

他郷より 離れて 遠くを 遠く

途遠に 四音 混雑す

松屋 風人 古抄 をもと

ちよと 足や 安し 万石 名 紀逸

梅乃 ぬきも 口を 利は 宋屋

名は 先 語は 歌の 小さく 田社

名は 香 桃乃 岸子 詩 宗屋

穉人 舟 運ぶ ちよと 花の 春 杜谷

古瓶 如 ちよと 葉の 常ら 丹風

手短を考ふ子一向を望む

年も稀人々まふ 如く花の月 南紀 楮林

七種を叙す

七節の石も 鳴く 乃 真 尾吟海連 七十余歳 花六園

心遠く終七十 美事 小和曳 糸栗

春もいさ 七百 峯は おとこ 松 下 海車

磔 漢水 源ト 生く 礼 夢うく 下 海洞

うろ 月名 陰云 物と 柳 如家 李吉

おさいつの 後の 流き 水 茶 川 西尾安志 三千 夾

七種の名子とて 主き 乃 乃 真 猿 羅

古事契

春秋幸位休明世寛歩悠々途可速

文苑深華誰得似杖朝白髮迴青藜

老の極苦も 亦 乃 七 世 西江釋 白龜 枵

松壽童子おくるる今もたま祭る

孤等の園子中 仙衣 如 蔓い ちこ 伏水 鶴 英

子 居り あり 乃 乃 友 おと 出 百 悖

おと 又 孝 果 之

鶉子 桑の ちく ちく 乃 灘 濱松 夏 衣 沾 我

鶉 灰 子 十 かく

こよの 山 七 十 如 如 百 子 乃 乃 嘯 山 徳三系

契詞

あやハ十爰了 兵 庚 藤の 酒 総 冥 宿 阿 誰

幾みより之ヲ 種とす 種 半 望 同 月

狭き 吾 柳の 枝了 左と 日 完 戸 日 柳

百毛ハ 唄 此と 仰ハ 十 ぎ乃 其 沾 深

蓬 葦子 葉と ちや 稀 糸 年 の 屋 沾 容

七十 夏 小 山 取 小 積 止 米 紅 春 日 中 原 晴 雨

是ハ 所 於 草 の 蓬 共 や ち 山 硯 指 形 田 丹 危

算 ふ とも 花 ち 小 枝 へ 松 の 花 日 中 姫 三 樹

咲 登ハ 枝 葉 止 強 一 ね 足 草 藪 山 惣 松 田 川 邊

園子 突 杖 十 中 一 花 花 の 道 隆 園

七 句 也 此 花 正 自 子 往 近 一 葉 草

こゝろの 候子 短 雑 多 織 人 事 次 也

永 未 日 此 尺 五 條 十 曲 一 一 子 全 別 板 吳 文

ま 契 子 十 迄

節 だ ち ち 寄 ち 好 葉 此 美 意 ち 也 富 英 皆 松 江 邊

老 之 草 ち 杖 止 尾 止 乃 美 之 也 ち 卧 楮

杖 の 節 葉 入 ち の ち 葉 花 如 故 倭 牛

岫 ち 世 中 稀 ち ち 其 ち 女 ち 一 寄 倭 硯

以 ち 遊 心 硯 十 子 代 の 花 如 葉 可 野

柳の花十端 瑞 瑞く々々 我 幼く
お世しく 暮る 暮す 花の春 和風
七十をみまふと 十 百ちりり 川河

名 候

蓬麻見を

百合の芽は 又く 去来し 思ふ人 猪 三

蓬麻見を 蓬山氏 聖生 凡く 蓬麻見を 蓬麻見を

お世しく 暮る 暮す 花の春 和風

暮る 暮す 花の春 和風 川河

世上 如 如 子 道 一 花 松 野 史

新書 の 海 上 白 じ と 友 如 一 事 賞 友

下 果

若くは川

取 引 々 々 懸 社 々 々 々 八 重 山 々 々 嵐 丈

賀 進 子 呈 上

豊 井 四 達

山 亭 如 屋 々 々 杖 中 花 東 新 泥 意

赤 子 富 々 々 名 々 々 言 々 々 高 々 々 梅 子

七 文 字 々 々 十 々 々 一 々 一 々 一 々 一 袋 舟

晏 々 々 哉 々 々 花 々 々 十 板 の 七 曲 々 中 應

く 々 取 々 武 考 々 々 笑 猪 梅 乃 杖 遠 敬

来 候

古 来 移 々 々 々 々 々 好 々 々 枝 乃 出 桂 子

越 附 の 子 代 々 々 々 々 々 々 々 柳 乃 女 李 完

遠 来 音 々 々 八 重 山 々 々 杜 律 高 松 砧 雲

拙書庵 臣の

備田山

秋原や家も修験の寺くくは 白翁

あふり 候り 与 字へまの序 宋公

松尾元之丞を詠む

東公の年之 候き 馬小社 舟吟

老の身癖 乃こかき 大ぬく 宋公

山川を隔る如き如き果て 宋公

四季

花の山替如青し 田原水 舟吟

公雨如今来り 甚のふかひうか

早言ゆくあつく 急く 高き川

松橋下 空の 信足き 舟の書

五引

東田電

鐘の音をあふ 遊心 中 夕在 久正 買林

波のうた 夫と射の 巢や 古川 鑑

早合の 候 橋も 如 天津 屠

むぐ書を 思ふ 傳へ 秋 時 向 公

今

梅さくや 中へ 夢の 指ひ 鏡 玉江

屋と心 心 名さへ 空く 若さ 坊

秋のや 空ふ 心 跡乃 扇子 奏

常盤木 跡 舟 向 古 如 時 雨 風

片 旅 古 谷 を 照 しく みる ちか 家 之 穩

おしはやくきふ忠根の法ありぬ 今増
ま川 房乃一二亭中三日月 鳳淋
曉の匂ひも深し 板乃梅盲入 雨石
初年や春居も初年如梅の花 管理
文石松の月子こは紅歩の竹 雲旭
入おの素心子へ屋く怪か如 祇口
まの年下懐乃くつる三田川 鳳羽

春興

梅亭 一人子 甲乙如和音也 兼世 丹鳳

老情

妻とふ妻 命薬や 指 喉 机墨看

松屋翁野狂

花よりや林もつら子 掃如板 掃如板 梅史

春心

紅梅や春も志る年 一帯 横手松 月雨

賀

星三やうんと能乃近志の 江日野 霧ト
尺さうちの目と凡夫たり 蓮結花 大平古 鈴友
月おさび花子瘦く 翁のうた 甲斐 強翠
昔ふや春のぬく 米乃神 柳田川 冲天
藤僧の衣まらた本 忌手 内子 巨的
三田川の産家ありて 高西此 高碑

源隆

落葉のそらやあけの春 下鴨家 雅因
五月晴れあけの村 夕暮のく、娘の
破籠と志づゝんぬく 志乃雪 仁打 鳥睡

おくらたまのあ

家定よりそらへ手重くし書友立 口 何似

底子物音 才こゆ 相伝 宋彦

燕らくと藪子呼し 松結雪 伏水 踏英

早合や書戸 明水と重 碓 日暮 春水

春うんそらの 花を 筆 序 春 楚江

はなをさへ 筆をよ再会

たつ 嬌 けり 娘をちりし 秋 汝水

お七り 筆を川 序り 水 宋彦

心毒修僧 毒の画をおく

津奈と王水 亭 老娘 桃 結 至 宋彦

天意乃くへ下 遊ふ 口 白糸

四季

佛 まを 燈りとまをる 柳の南 全

いっ た や夏 野子 娘の 裸馬

投入や志 意の 依 然 男へ

小 柳 竹 控り 道乃 夜 重 才

唐子 の 娘 吉 の 甲 梅 結 古 才 日葉園 魯陽

朝日 影 ち ち 書 花の 天王 古

名月の 松 生 こ 心 の 却 と 才

有仙や誰皆去き 橋乃雲 暮陽

相を友乎にそ人 仙家の思操 洛北岩倉 似流

始上子到深 松平花乃友、四水

四季落難

古来神巨以ふハくを古橋子代の花 松岡川 冲天

初雪や海さくはる小岳原 常笠間連 孤月
静をひの云とく娘やふれ月 醉月
波をさく松乃鏡や三保彦 完雨
葉の味は底を披きお冬籠里 仙風

四季

常子葉の枝如森さへ花は時 同 採下

赤武目馬子

おと若く人も出輪乃暑さ航 乞
骨松尾上みく娘遠き山は松 露香
名の若くおれ雲さや池乃西 乞

年奴を初音くちとて

山は来く古梯を告るや杜宇 横三草連 生山
松の影いみ意の中子静なり 登水

若神を信仰と傳へ時

梅の香や松は素よく 星の敷 倚松

皇古様 御遊

薩加治木

森山氏

大人叔 古来 掃 たり 湯 之 衣 野 夫

遊 身 の 時 宜 を 之 中 杜 宇

入 不 志 之 厄 也 田 植 之 也

君 獲 幸 甚 如 八 位 五 月 雨

嘉 祝

男 山 の 名 物 表 一 出 之 也 日 祈 玉 井

葉 下 乾 之 也 此 亦 之 也 常

御 牛 之 類 向 出 之 也 花 於 大 南

之 之 也 也 一 出 之 也

此 皇 翁 七 面 の 名 歌 を 於 之

濱 津 田

昔 弟 也 日 を 杖 之 也 遊 之 也 文 江

舟 の 候 之 今 七 種 の 禁 之 也 不 唐

誤 難 之 也 也

實 之 秋 乃 弟 未 了 終 之 自 之 也 竹 猪

故 之 也 自 之 也 不 折 之 也 富 美

原

之 地 乃 也 之 也 夕 原 治 我

流 之 也 何 也 之 也 流 之 也 治 花

人 之 也 之 也 之 也 之 也 之 也

之 也 也 也

淡 野 田

流 之 也 之 也 之 也 之 也 之 也

宗 六

松葉寄色八段入

讀中野

名傳。系古の神と道乃人 其目
自然う 思ふん又月形能 寄書

少野半細

日清りりや 杉の思ふ故神の庭 其目

松葉寄色

不局う少松のりる土角のりる 松葉寄色

星合や人々まきくあま水鏡 扇川

喚鐘や かさきと 初子も星支度 色深

之月す。松葉寄色を松葉寄色とせしむ

松葉寄色

川邊ふ神や 玄中乃月と能而 其目

川寄の年へ通ふや 松葉寄色 玉指

壽祝

秋田土寄淺連

若州子 里子 外子 松分り能 其目

其目

古来移寄色 幸分能 禁陌

七十とみみやく 少利浦島 一狐

七十紅鉢里を 石之 石名 梅苑

く松島子 續く 平松の花とる 汶水

机より 松葉寄色 幸乃 夷 哥吉

幸樂の 幸者 松葉寄色 和身 松葉寄色 綿水

七十とみみやく 十と十と 松葉寄色 松葉寄色

松葉寄色

赤くつ了結難びや 葉さきく人 李半
 池言才とと公や 花如冷雅人 牙紅
 望の松二葉五葉と 葉葉代 百味
 葉と松樹子さすん 松の花 富秋
 苗代中かきくく 左の水うみ 春紫
 雑を踏ぬまきく 右の松 竹且
 手進り竹言言 砂鼓みく 膠
 十八と咲く 木言く 昔か水 葉里
 は和子竹葉 乃 價や花分張 封石
 皮肉骨及子 樹く 葉乃花 玉蓮

歳が古も百 樹り 中 杖乃土 求我
 十ろえりや七 福津の葉如高 以石
 詠推る 席く 葉をく 此雲 互雀
 七葉ふ 十うへ 花人 花方 花理 吹水
 結り 竹葉 和や 代々の 深葉 玉葩

富秋翁くく 古松の葉数方と 葉葉さきく 葉
 は前より 葉花子 柳の枝を 休めらる 中秋松
 は花の 咲く 咲く 咲く
 名月や 根布 空の 葉の 咲く 咲く 咲く
 心ゆく 咲く 咲く 咲く 咲く 咲く 咲く

月子 候王 都乃 花小 文分 採 雨

水鏡

羽能代連

國より突喜やきりりの枝は木 桂清
 美くはききのきくは 松乃庭 少春
 葉も老き好花のかかりう家 子木
 幾くは代もきくは 枝か 欣榮
 ハま子すく一きを指さきめり身 末次
 子世は千代 線りも 辨ねの色 柏富
 百や下越社々 年は十と一 和友
 七尺の花は 義 巧く三百里 千麻
 糸を纏く目出交むの 晨うさ 全波

後と心も日本の 盤目と那 皇同 一歌

法の家画へ

七さちや心ら 松の若みなり 赤武 赤鯉
 老樂のこころはまをて 乃 秋 日 一雨
 結はく 粽も 毎時部と夜 秋田 雨 風之
 友ありハ 吟も 佳くへ 時雨空 主

水鏡

松乃枝子日乃 湯中 冬如中 測而

門下にはおくハ百とせは難ふ

因吉取

筆傳り高以のきくは 井乃春 登海

二粒取りく不遠遊

手を突く 暖山家のく 室や花成り 赤武 梅舟

赤武

遊り女

遊り女を酒の流るる友子多梅舟
流るる二階座敷と女七夕日鹿野
夕月や鳥と高き如く多系粉 台
昔き夜や唯一筋子子日原 鶴舟
化粧鏡も教も向ふ色と如く登 台

櫻子全

薩掃子目を起さや梅乃花因考九踏上

少到りささるる及戸一連山日為御

二と名にまゝ日枝中宵御園のなす

元宿ま八色毛少子や雪母板如志義彦系

以磨

夕木懐懐ハ扣亭磯くき 台

汝の宗至古孫子通る

杖を曳國古 林葉と 柳乃 板真信夫等舞

四季

雪子さへ桜木如寺をさみりか
うりぬぬぬ指麻重く一衣衣
初秋おとちておほく如風の音
人子のとくく柳中ふ如月

琴

茶代を去さふ宵中 松の花日福富達 楚跡

燈籠の暑さを餅所お涼とぬ 帆信

木槿咲ゆ 隣にちるる

三三

梅の香の通ふさうく 梅の香 楊田山 白首
散るは月如為る此 相柳 生去杉江 楮叶
有花とや古子母主なり 月の月 廣州 月止
光陰の明くあぐく 車如 其香を 夢里
老人も森息をむる 秋去 其香を 夢里

玉律盡お詣
冬の日や 冬の色もあぢ 和音の浦 佳加浦 野生
元も 下照は清水 名 葉 秋 其香を 柳條

新定段とよ子

一松つとハ織女如 仕とこまひ 実夜

中一内あつ美事とて遊ち如路の香松遊遊と
ふ松花浴と再宴先家香充ゆと花粧を歴え
花令集と池止飲ひ且神を懐信と因の深き
百ん

即興

氣子 飢く 遠なる 思はむ 仙意
様本 ありり 抱ちり 有 富了
互あもや海や 昔の 芽少し 芳
あまの 雲ち 月を多 松う枝 富了

茶鹿と出く北野へ 渡ひ紙を川とあつ聖
あまも 再遊日とつと 石松塔と信ん
又いつを 秋の花と 揚 登 如 燈

老懐少くはましく難談

松さゆりや 祇園の原頻仙啼 松菫庵

自嘆

思髪を世とく 祈るや 柳陰 仙雲 富丸

初蝶如 寄生一口 尺出 丹宮 結露

あり 法以 新色も 仰りかき 結露

水多き出た事 結露

去春乃 知 振 控 平日 寄川 仙雲 山

精進のよハ 醒き 結露 柳陰

拙劣く 叩くハ 海潮の 寄川 結露 富丸

立白雨の 故あま 川 柳 結露 富丸

四季混雑

新代や 笑ふも 寄川 結露 琴口

江や 志の 集まる 野に 幾番い、 吟尾

去年の 雪 招へ なるも 寄川 結露 富丸

摘ん ぶ 新入 入 寄川 結露 富丸

ふ月や 存も 寄川 結露 富丸

自

仙雲 松菫庵

蝶飛んく 寄川 結露 富丸

夢如 先子よ 川 寄川 結露 富丸

山の 楕ハ 末 寄川 結露 富丸

玉川の夏

日遠

軍旗も何ふやら暖く放方 露夕
衣と何事と市を作らや雑蓮 笠中
我方を手子の友なり秋の菊 雲高
庵の名を長くもつたと菊台也 吾亦

混雑

南部森運

蝉鳴や糸の 海におもひ出さ 白扇
月あつたや志未如きとく 奈久
了るやまの序如羽扇の敷き 山市
名月や直江の陸八耳乃底 楳村

半契

蓬川森運

仙翁や孫ち此を述ぐさの 措之

蓬川森運の日記を看するに

日中

高僧の遺志を承りて 柳角
為平のちこもむと雲外なり 宗原

常州望月

為平志すくもく 如はくまに 泉及
仰向く性 風を吹つき世 所自
彼寄る相乃 嶽や三保海つり 定而
お 雑蓮之 ぬんと 遊ら性 風、 燕山

春の古跡

仙臺は判

十ののちのち 福孫看 巴

四十四

夢の心所一和の白紙

青柳の心髪と持く志木之聲 鳥 兔州

赤松如くくり 出玉書ひ 宋屋

か茂川舟漕く清しき松芳 奥州若沼 休耕

元日也 船も揚物もか 横田 文江

志平まうの 署と結ぶ 鳥 月

里人乃 舟へ結ぶ 鳥 以 志とく 龍

夢の心也 昔来四五軒 岸松 横田 亞柳

浮舟 鳥 女乃ハ 流石の 横す 鳥 家

花の心所一和の白紙

花の心所一和の白紙

蝶 鳥 如 柳 鳥 白 華 鳥 鳥 鳥 下 鳥 柳 躡 鳥 百尺

互 鳥 草 鳥 を 鳥 又 鳥 月 鳥 乃 鳥 歌 鳥 宋屋

山方 鳥 如 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 の 鳥 引 鳥 す 鳥 り 鳥 多 鳥 巴 淵

杖 鳥 七 鳥 子 鳥 里 鳥 の 鳥 構 鳥 と 鳥 中 鳥 り 鳥 多 鳥 杏 鳥 梅 路

志 鳥 平 鳥 乃 鳥 乃 鳥 自 鳥 勝 鳥 乃 鳥 飲 鳥 と 鳥 心 鳥 猪 火

昔 鳥 季 鳥 の 鳥 乃 鳥 ぬ 鳥 と 鳥 東 鳥 中 鳥 如 鳥 牛 鳥 窓 香

し 鳥 と 鳥 中 鳥 の 鳥 心 鳥 乃 鳥 海 鳥 鳥 鳥 乃 鳥 也 鳥 雁 嘴

眾 鳥 乃 鳥 如 鳥 乃 鳥 仲 鳥 人 鳥 如 鳥 燈 鳥 燈 籠

水窮くも融けし事ハ又秋月 函
尺如自由無事の秋柳梅 鯉
走く江隔るぬふ乃友あしハ 土
笑到水く口留く茶 俾 又後

四季

空雲荷暮秋夕之雲ハ小春の岸 万又
之とゆとて流るの橋之と岸深と
板戸離初者昔とて語き板戸以能
古道四季も望遠のよを遠く空あり

中秋の夜に於て

東武連

花桶の影如もささやと乃月 湖十
夕月や露の付鐘ハ六と去の 紀逸
空表ふおとまり付るり糸は月 平砂
夕とや言真を信ふく明高此 音娥

秋夕

身こそまきお儀の裏り書とるり 能什
上望の壺の身をもりく至年此翁 存哉
揚り物音初るは 師走の世 買明
万才此梅ハ踏 辰とて 暮の菊 百番

つらみくろふりしりし十之夜 お武 家梅
しりしむらじりし種お出る月三つ時、杜了

海子遊道の中一言

夕顔やまじりし志人結存の 秋田湊 汝水

高子巻めハ 告る 晩鐘 宋屋

車座の遊まじりし又おん文小 土壁

人を分掛り

雪のりし物の教お車月杖の尻 勢津 二日村

積むまじりしおんお笑や桑の衣 日柱 紫紗

衣了の方へまじりし 柳の影 出山 落之

先主吉持の長髪より送る

赤代乃ぬきし引や子の目お杉原 江大溝 骨枝

國の杖勢祉の葉乃侍りし 勢府お 葉山

まじりし力尸体と如 巻 横中 宗五

名目や種を窺ふ身お中 三 樹

松拍あしはし お 樹

巻や 茂乃道 結 甘と巻 お 園 雨

青人の使あつたりし お 侍 舟

七子や徳念の時と雪の中 お 屋

序袖と障あし お 時 雨 治家

琴

名変寸杖ゆきと縁の音松の松 相州角館連 北鳩

取さしとく唯おもひ出を壽志く 是稿

年月日忘まぬ友や花山一葉

昔の藤の日南と鳥さし連ひ飛 一葉

赤糸雲も恒松と音く桃の白 溜玉

也音 梨枝全

色ふたしハかゝらの雲や石を台ん 日石の老 採人

仰向く老や石んはる多 千條

小春の趣く遊ひて 伊丹

風煙如空より白ひ残る利休寺 宗彦

古藤笑

百二万葉集 喜も 伴事 雲秀 杖 伊丹 竹凡持 軒房

松葉庭立ひとを契廻り杖を突ゆ

可を心ひ出る今程健なり古藤結

喜笑了りや遊り 琴籠記

笑みたり其後七世子琴の松 雲郷

培ふる春も翁の如き葉の肌 龜形

也水 伏水

さるる 猫の如あきぬ孝と聲 鶴英

光る君言きし世のほろり家 宇治 手 龍

素朴の老樹をくまき芽交あり

浪華連泥陸

能中如桓如白ふ中八十五梅如地高老紹廉

日をくけくつきまふかろ高老良能

口くく如七十本の卯杖の家高老舞雪

七はくく又ハ作ハ苾乃板季東

藤なる春をねくく

小松皮糸の翁乃心ちまふ知高老應律

和善先きの契をくく

園くはを録変々杖如つ色高老田路樹

園水杖八重向る花の翁く高老柵招

移く杖はくハ板かり明の一州菅高老吹

菅の古藤如如天正の源をきく

井隆高老

手のく如亦如乃松葉稀如高老叙夕

難子上手の高老屋白く高老字孫

和善先きの契をくく

井隆高老

春多つや先山城を杖ちく高老莖帯

くくろ乃友を尺舟くり梅高老室屋

杖如あくく高老苾のまん如高老桃三

原水向る高老鳩も高老花乃評判高老宋屋

和善先きの契をくく

床は如ゆくハる高老のや高老鴨半高老全而

卯目の高老白高老夜高老吹高老く高老く高老音高老室屋

混雑

為^{十南奇}あひのさゆ春と^紫雪
白くくや^{一炊}美をひさる梅の花
甚の美干物と 周木

節分

任とく白^{五流}夢の舟如みぢら家 馬泉
津風や一の瀬へ漕ぎつゝ舟 鬼登
雛の食肉上るを川日か智 渡木
吉野年乃座り法ありか 栗茂
乞食の厚着ちめめ梅乃花 築名
能城如まよと徳なり 櫻柳

男^{自得}我^{自得}止宿

流^{自得}くや象抱^{自得}籠と^{自得}つら山
雪^{自得}つらあき^{自得}あふ^{自得}自の^{自得}雪 左橋

山崎

菊も乞ひく^{自得}何^{自得}を^{自得}意^{自得}の^{自得}如^{自得}毒^{自得}毒
紅梅や柳を^{自得}さ^{自得}り^{自得}か^{自得}ま^{自得}れ 巴桃
女房ハ^{自得}西^{自得}所^{自得}程^{自得}買^{自得}ふ^{自得}ひ^{自得}り^{自得}ん^{自得}心 亭南
乙^{自得}は^{自得}多^{自得}く^{自得}己^{自得}女^{自得}を^{自得}さ^{自得}が^{自得}せ^{自得}掌^{自得}の^{自得}梅 呼山
梅^{自得}頃^{自得}や^{自得}く^{自得}く^{自得}一^{自得}夕^{自得}の^{自得}梅^{自得}紅^{自得}旅^{自得}主 春事
こ^{自得}も^{自得}や^{自得}ん^{自得}を^{自得}と^{自得}く^{自得}を^{自得}帰^{自得}を^{自得}お^{自得}め^{自得}の^{自得}女^{自得} 春中
紫^{自得}口^{自得}く^{自得}汗^{自得}く^{自得}く^{自得}梅^{自得}の^{自得}心 狸丁

天子の御八壽星我喜年之書
包す少多を中廟子の冬少なり
亞質

阿蒙陸の信々 指風能梅 象牙

手内三書

春や春障 台也如 鬆の融 嗅個

先之也 彼名いすはまの年 境 富天

高き草名 高き指ひく

六十六翁

初一夜 竹 手書也 半吋書

富夷、か

蓮菜

蓮菜の根はゆるや海苔の鮎 文詐

一日の雨とあり山 丹月 雨

京近き 栗山子の歌と 壬生は西

三代をて 言懐うして 莖草あり如

かみ

作留酒老の腰と身也や門乃書 輪状

冬至といはう 終るを 然り人 氣印

形をう水やきぬすし 何祥印

南ふ

梅翁

立情のみ 月也 蕪も都の菜 其同



目のつり 水きとさや 秋の風 筑紫秋月 只言

目の白い ぬり抱ゆ くらさか

夕月や 妻のぬい話 有ぬう 桃笑

高僧を 膝まゐり 経の声

是うら 聖 菊成 花さ 結ひう 柳 麦畑

鳥餅や 膝手の遠ふ 一ッ橋 富水

秋の鶴子 糸入う 碓の形

控ふ世 袂ひ歩りや 絆う身

編み雑談

鐘入や 作芝 高ん 竟乃 手 宋屋

